

趣意書

私は 1984 年城西歯科大学を卒業以来、国立予防衛生研究所、国立感染症研究所、国立保健医療科学院、鶴見大学探索歯学講座、西東京歯科、総合インプラント研究センター、東京医科歯科大学大学院研究科インプラント口腔再生医学講座、東京歯科大学衛生学講座、福島原発事故の生物影響を考える研究会等で研鑽を積み、様々なトップランナーの恩師、先生方から恩恵をうけて現在に至っております。そして、ルイ・パストゥール医学研究センター環境制御研究室でご高名な先生方からご指導、ご鞭撻を授かり、基本に戻り、斬新な考え方を集積し、高純度機能水の研究等をスタートしております。科研も継続し応募しています。この経験、経歴はかけがえのないオンリーワンと自負しております。

「われ思うここにわれあり」、「人間は考える葦である」、紆余屈折、多様性、西田哲学、京都学派、利己的な遺伝子、これらは私のトピックです。それを踏まえながら巻頭言を書かせていただきます。日本学術会議からのデータによると日本の学会数は 2 1 5 7 であり、歯科関係でも 1 4 5 の学会があり非常に多く細分化しすぎ枝葉末節の呈をなしていることが示唆されております。ダイバーシティとはいえ、その枝は尊重されているかもしれませんが、本質的に木をみて森を見ずとなっており、各学会が正しい方向に向かって活動できているか疑問を感じております。そこで、第 26 回日本口腔機能水学会学術大会の大会長を仰せつかるにあたり学会の在り方について考えてみました。上記学会のうち「日本」と「水」が名称に入っているのは、日本地下水学会、日本水道協会等、日本機能水学会、そして、我々の日本口腔機能水学会であります。当会は歯科関係で唯一、「日本」と「水」が名称に入っており、日常臨床等でも水を使用しております。水は地球の 7 0 %、人体の 7 0 % を構成する非常にかけがえのない命の元であります。但し、海水はそのうち 9 7 % をしめ、淡水は約 3 % にすぎません。使える水はわずかであります。それらの環境保全と改善、進化を含めて本来学会の在り方は地球に優しく、人類を含むすべての生物の共存共栄、そして保全である方向性を示す教育、啓蒙、実践です。そこで、原点に戻り命の元で有る水について見識を深めることは必須であると考えます、僭越ながら、本年の学術大会のメインテーマを「地球環境と水」とさせて頂きました。また、サブテーマは「生体における機能水応用と将来展望」としました。近年、地震の活動期と温暖化の影響で毎年災害が起り、大きな水被害が各地で起きております。水の災害における領域は悪魔であり、同時にリカバリーである天使の役割も演じ、両刃の剣での応用を再認識するべきであります。福島原発事故や能登地震、水害等で設備は老朽化し水道普及率 9 7 % であるにも関わらず、非常に脆弱であることに起因しております。能登地震ではそのシステムが簡単に破綻し、現在でも回復が非常に遅延していることに驚きを隠せません。インフラは災害に非常に弱いことが再認識されております。大会初日は放射線と水(水道)と機能水、感染症をテーマといたしました、東北大学名誉教授で医師でもあり、日本放射線影響学会元理事長でもある福本学先生に福島原発事故における生物影響と放射線と水をテーマに特別講演をお願いしました。今も、残った核燃料は水により冷却されています。水がなければ、核燃料が破損することは否めません。また、能登地震の影響で水道管が**未だに**破綻していることに関して、そのリカバーやその対策等について日本の水道関係の第一人者である国立保健医療科学院生活環境研究部水道工学科の嶋崎大先生に災害と水とこれからの将来展望についての特別講演をお願いしました。震源域の志賀原発の無事と、珠洲原発が震源域に建造されず難を逃れたことは不幸中の幸いでした。原発、放射能、水、水道インフラ、災害はいつでも背中合わせに考慮される必要があります。原発は稼働しているかが問題でなく、核燃料が日本中にあることを常に認識しておく必要があります。次に、新ウイルスの出現、いわゆるコロナ禍であります。教育講演はコロナ禍で脚光を浴びた機能水応用

について、基礎から応用へ機能水概論を機能水財団の堀田国元先生にお願いしました。国立感染症研究所の高木弘隆先生のテーマはコロナ禍の現状と感染症の現在と未来です。

大会二日目のテーマは生体における機能水応用と将来展望です。ゆりかごから墓場までという北欧型の予防歯科を目指すべきであると私は考えていますが、日本の歯科保険制度そのものが出来高払いでそのような体制になっておりません。生体で最も固く堅強なエナメル質を切削しすぎます。機能水は予防の目的でカリエス、ペリオとも有用と考えます。そこで、予防歯科とフッ化物応用の大家でおられる東京歯科大学 名誉教授の真木吉信先生に「コロナ禍後の口腔内カリエス 根面う蝕と予防」という講演タイトルでフッ化物応用と機能水について特別講演をしていただきます。さらに、国立感染症研究所細菌部で研究を続けられ、特に院内感染対策について造詣の深い、現在は日本大学松戸歯学部感染免疫学講座の泉福英信教授に「コロナ禍における院内感染対策と消毒剤の評価」でお話をして頂きます。もう一つの特別講演として歯周疾患と機能水応用について日本大学の歯周病科で研鑽をつんでおられた西田哲也先生（当学会会長）にお願いいたしました。機能水が国民や人類のお役に立てられるように今後とも努力し研鑽を積んでまいります。

第 26 回日本口腔機能水学会大会長 常任理事

ルイ・パストゥール医学研究センター 井上一彦